

会 議 録

会 議 名	令和5年度 第2回 川西市社会教育委員の会		
事務局	市民環境部 生涯学習課 (内線 4567)		
開催日時	令和5年10月6日(金)15時00分～16時35分		
開催場所	アステ川西5階 ルーム500 (Zoomによるweb併用会議)		
出席者	委 員	野崎議長、常行副議長、柏木委員、上田委員、倉橋委員、金子委員、	
	そ の 他	丸山郷土館館長	
	事 務 局	岡本市民環境部長 籾内市民環境部副部長(生涯学習・図書館・公民館担当) 木田生涯学習課長、尾屋生涯学習課長補佐、 山田生涯学習課副主幹	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	別紙のとおり		
会議結果	別紙のとおり		

審議経過

1. 開 会

2. 市民環境部長あいさつ

- ・川西市郷土館のあり方についての提言案についての協議いただくことになっている。
- ・川西市郷土館については、平安邸の耐震改修工事することになっている。その他の平賀邸、ミュージゼスポアール及びアトリエ平通については、土・日・祝日に開館していく。

3. 報 告

令和5年度第1回社会教育委員の会以降に委員が出席された各会議について、会議概要等について報告がなされた。

報告がなされた会議

- ・「令和5年度近畿地区社会教育研究大会滋賀大会」(令和5年6月22日開催)

4. 議題について

川西市郷土館のあり方について

川西市郷土館のあり方についての提言(案)について

事務局より、川西市郷土館のあり方についての提言書の構成、並びに郷土館の目指す姿、理念(コンセプト)の案についての説明がなされた。

提言書の構成(案)

1. はじめに
2. 郷土館とは
3. 郷土館の現状と課題
4. 郷土館のあり方についての討議
5. 郷土館のあり方についての提言
6. おわりに
7. 川西市社会教育委員名簿

郷土館の目指す姿、理念(コンセプト)(案)

ふるさとに学びふるさとを愛する人を育む

学びを深める

具体項目

地域のつながりを深める

具体項目

文化交流を進める

具体項目

まず、事務局から提言書の構成について説明を行い、その後、郷土館の目指す姿、理念(コンセプト)(案)についての説明がなされ、構成については、事務局案で進めていくことを確認した。

また、各委員よりコンセプト案に対して、次のとおり質問や意見等をいただいた。

(委員) 社会教育施設であるということは文言上外せないのではないか。

文化交流という言い方は、今の時代、良い言葉なのか。交流という言葉を使うと国際交流のイメージがある。

(議長) 普通、文化振興だが、文化振興を進めるというのがどうか。

(委員) 提言の大枠としては、この形でいいかと思う。

コンセプト名は、ふるさとに学びふるさとを愛する人を育むで前回の議論の中に出てきた言葉も入っており非常に良いと感じる。

(委員) チャート図はわかりやすい。

三つに整理されており、その上で一つでまとめている。

問題は、具体項目をどのように展開させるか。

(委員) 構成自体は特に問題ないと思う。

文化交流といった文言については、少し違和感がある。

学びを深めるが、おそらく生涯学習支援、地域のつながりを深めるが、コミュニティ形成を支援するようなことかと想像したが、文化交流を進めるについては、具体的な項目が入れば理解できるかもしれないがわかりづらい。

(委員) 学びを深めるについて、元々学びを推すことを前提にしているようで、郷土館に行く人ははじめから学ぶ人もいるだろうが、子どもだと学びのスタート地点になってもいいのかなと思う。

(委員) 私もこのコンセプトでいいのではないかと考えている。

ただ、今後に向けての意見として、この郷土館って川西市の中に閉じこもるような感じでいいのか、ふるさとに学びふるさとを愛する人を育てるでは、非常に地域限定的な掲げ方になっている。

(議長) おっしゃる通りで、ただどちらにシフトしたかという、委員おっしゃった社会教育施設というところに軸足をとった。市民がベースだが、市民だけでなく交流人口を増やさないといけないので、こうなっている。

(委員) 地域限定型ではないかというニュアンスには、ふるさとという言葉が二つ入っている。非常に強調されているように感じるので、一つにすればさらっと行く。

(議長) 二つ目のふるさとが変わるか。ふるさとに学びは川西で学んでもらわないといけないので、そこは外せない。二つ目のふるさとは言葉を換えることができる。

(委員) 例えば地域という言葉で置き換えたらと思ったが、あまりかわらない。

(議長) 簡単な言葉何か、思いついたら出していただくと言うことで宿題とする。

他は承認いただけただけということで、文化交流とか若干の文言の修正はあるにしても、三本柱ぐらいで、キャッチとしてはふるさとというキーワードを残して、学ぶや育つという言葉を中心に据えるということだ。

具体については、 から までまとめていただいたが、郷土館館長に来ていただいているので、館長にご意見をいただきたいと思う。

(館長) 昨年、委員の皆さんに郷土館に来ていただき、案内させていただいた。

館長になった1年目にコロナのため臨時休館があり、イベントができなかった。

入館者は最初の年が1,200人くらいで、月100人、2年目から少しイベントができるよ

うになり 4,500 人ぐらい、3 年目は本格的にいろいろやり始め 5,800 人、今年 9 月までで 2,800 人ぐらいの入館者となっている。

郷土館館長として館で勤務して驚いたことは年間約 30 講座し、1~2 ヶ月にわたる展示や郷土館まつりなど、本当に色々な行事を行っていた。やっと、昨年本格的にやり始めることができた。

そこで、逆に、昨年郷土館に来られてどういう感想をお持ちになられたのかお聞きしたい。

(委員) 以前から趣味や興味のある部分であったため、何回か館には行っていた。

土日は避けていたので、静かな風景を見させていただいていたが、昨年、伺った時の紙面を見る限りでは相当な行事をやっているというのが素直な感想だった。

ただ、視点を変えると時代に合った考え方をするのが今回かなと思っている。

(委員) 私は公民館の館長の経験があるが、それで郷土館はよく 30 講座もやっているなというのが感想であるが、たくさんの方が来ていないので、逆に 30 講座もできたのかなと思う。

初めて郷土館に行ったときに、どこから入って、どう行ったらいいのかという出入りの順路がわかりにくい。また、正面が閉まっていたが、開館しているのであれば、暖簾は掛けるなどのシグナルがいる。このほか、展示品に値しないものまで展示していた。何でもかんでも展示すればいいものではなく、取捨選択が必要だろう。

環境的には、あれだけ広い所でいくらかでも活用できるのではと思った。

また、あの場所に大正時代の建物が二つもあるという、西宮と尼崎は大正時代に市になっているが、そのほかの阪神間で村から町になっているのは、川西だけ。その町の痕跡を残しているのはすごいことだと思った。

(委員) たくさんイベントをされているのは知っていたが、正直なところ子育て世代としては、そんなに行かない。子どもを連れて行こうかなというイベントが少ない感じがする。

しかし、実際行ってみたらすごい建物で、子どもにも味合わせたいなと思うところがあったので、若い人たちがもっと集るといいなと思っている。

(館長) 2月にひな人形を飾ったり、ドールハウスを飾ったりしており、その時には幼稚園や保育所の子どもが見学に来たり、毎年東谷小学校の3年生も見学に来る。

(議長) 近所の子育てサロンなどが日常的に来るといえるのではないのか。

(館長) 子どもや引率される先生は無料だが、親御さんたちはお金を払わないといけない。

(議長) 子育て広場的なものはないということで、理解した。

(委員) ロケーションと建物自体がたいへんすばらしく魅力がある。

また、限られたスタッフの中で、いろんなイベントをされていて、努力されていると感じた。

ただ、生涯学習施設としては、やや中途半端な感じがした。生涯学習施設なので、一般の大人向け、小さいお子さんがいる家族連れや学校教育の場として、どのような学びが得られるかが気になるが、それぞれの対象者ごとにモデルプログラムのようなものがあれば、こんなことが学べるんだということが分かって、もう少し来る人も増えるのではと思うので、その辺りを改善されたいのかなと感じた。

(委員) 私はお伺いしていないが、ホームページ上で見た感じで、とても充実した施設、また色々なイベントをされているなと感じた。

ただ、確かに子どもを連れて行くイベントがあって、どれにしようと思うところかもしれないので、ホームページの見せ方もかもしれない。このキッズはこんなことができますよとか、それぞれの対象者向けにホームページを工夫したらわかりやすいと思った。

(議 長)個人的に行ったりしていた。通が好む施設。近代遺産でこんなところに製錬所があったんだとか、国道から見たらかつては何か山の上に繁華街というか何か豪華で、行ったらいけないような特殊な文化を持つエリアであったのかなと思う。かつては多田銀銅山で、町割りが超近代的であることをボランティアガイドさんから聞いた。それで川西の歴史と繋がったが、小学生や一見さんではわからない。そういった意味で通好みのする施設だなというのが正直な感想だ。

お人形さんの企画展も非常によい企画展だったが、通好みなので広がっていかないのかという気がする。逆にいうとターゲットを絞るほうが効率がいい。また、新名神高速道路の宝塚北サービスエリアにチラシを置く。置くとドライバーはすぐチラシを取る。何人かでも川西インターで降りて、来てもらう。郷土館が目的ではなくてもチラシを見て行けると思ってもらえるような、何か置けるものを考えるのもいいのかなと思っている。

(館 長)チラシについては、能勢電鉄の多田駅から北の8駅に全部置いていただくよう交渉し、置いていただいている。道の駅猪名川など、色んな所に置いてもらえるようにした。

来館者にアンケートも書いていただいているが、郷土館を何で知りましたかとなると、チラシよりも広報誌、新聞に出たら新聞の影響は大きい。

やはり、口コミ、若い人はチラシよりもネット、一庫ダムや黒川を見て、ほかにどこかないかとなり郷土館があるから、ちょっとおもしろそうだから行ってみようというやり方。

例えば東京、埼玉といったところから、妙見の森ケーブルが廃止になるからと来て、近くに郷土館を見つけて寄ってみたとか、また、洋館が好きだからといって秋田から来られた方がいる。

市民の方は、イベントがあれば行くという参加の仕方、10回以上来ている方も多い。

ただ、イベントを開催すると職員は手一杯になるので、どういう利用の仕方をしていただくかは今後の課題と思っている。

小学生では、今年、東谷小学校と緑台小学校が来てくれた。

緑台小学校については、午前中に昆虫館、昼から郷土館で、郷土館でお弁当を食べたが、結局半日ないし1日かかるので、1時間で切って勉強して帰るわけにはいかないの、どういふうに来てもらえるか。

(議 長)教育旅行というか旅行会社がパッケージで行うようなものってあるのか。

(館 長)昨年、浜松から団体で来られたが、猪名川町の銀山と川西市の製錬所跡を見学する日帰りツアーを旅行会社が企画して来られた。

(議 長)シニアカレッジ向きなものとか小学校高学年向きとかがあって売れたらいいと思う。

あと、川西市の学校の先生方に来ていただくために、教員研修で郷土館が入っているのか。

(館 長)小学校・中学校・幼稚園の初任者の先生が夏休み期間中に来られる。

(議 長)初任者研修で来ているということ。市職員は来られるのか。

(館 長)市職員も初任者研修で4月に来られる。

(議 長)学校の先生方に郷土館がどうしたら活性化するか聞いたりとかはできないものか。

- (館長) 以前、現場にいたが忙しくて、そんな時間はない。
正直、いっぱいいっぱい。東谷中学校の美術部は写生で毎年来る。
- (議長) 小中学校の先生で、児童・生徒を連れてくれるような先生はいるのか。
- (館長) 部活でやっと土曜日だけになって、先生方は日曜日は休みたい。あえて郷土館に行こうとはならない。
これは一面で、興味がある人は来られる。
- (委員) 精練について、そのような場所を見れるのはここしかない。他はみんな埋めているとか、模型を作っているぐらいのことで、踏みしめてその下にあるというのは、川西だけだろう。
良いものなので、コンセプトの具体項目に入れたらいいと思う。しかし、郷土館では、美術的なものがある一方で箸を置いている。見せ方がバラバラである。
- (委員) 見せ方を整理しないと行けない。
- (議長) 売り方だ。ターゲットを絞ってそれぞれに売っていく。
- (委員) 郷土館と大正時代と製錬所というのが知っている人の中でしか結びつかない。
郷土館というふんわりしたところに、色んな行くところがあって、行くかなと思う。
製錬所を見たいから、大正時代の建築を見たいから、何かのイベントがあるから行くというみんな具体なところで選んでいる。
- (委員) それでいいのでは。三分の一見てもらったら、残りの時間で他を見たい人は見たらいい。
- (委員) 川西市郷土館というところから、本当に具体項目を決めておかないと、大正時代というフレーズも浮かばないのが広く市民の感覚ではないかと思う。
- (委員) なので、この建て替える時期に大売り出しをするわけだ。
- (委員) そうだ。そのときに大正時代とか製錬所とかをポンと打ち上げる。
- (委員) あれもある、これもあるでいいと思う。そのうちの一つだけでも興味があって、来る時間があれば、他も見て、合わせて楽しんでくださいという形でいいと思う。
- (議長) 私も正直、社会教育委員にならなかつたら行かなかつたと思う。そういった近現代文化遺産があるということを行ってみて知った。
- (委員) 逆に言えば、だから売り出す。
- (議長) 三つあるのは強みでもあり弱みでもある。
- (委員) そうだ。狙いも分散するし、狙いがわからなくなってしまう。
- (議長) 強引だが、川西市にあるんだと、市民の財産なんだとしていくしかない。
どういう方向だろうか。
- (委員) 川西の遺産というのを、前に出したらどうか。
ふるさとに学びふるさとを愛する人を育むはその通りなんだが。
しかし、それと郷土館のコンセプトの具体項目がどのようになるか。
- (議長) いかなる施設もキャッチをどうするか。知恵を絞るしかないし、手を変え、品を変え続けるしかない。当面、耐震化の工事が終われば、今の数が倍になるぐらいの人をフッキングして知ってもらおう。リニューアルオープンしたときにフッキングをどうするか。
- (委員) 川西市郷土館に来れば川西の文化財がわかる、郷土館に文化財がなくてもいい、郷土館に来れば、どこに文化財があるかがわかるような看板や写真展示をし、改めてそこに行こうかとなる。
- (委員) 奈良国立博物館でも、どう売り出すかというのがすごく工夫されている。天平人というも

のに扮して、広報などもされる。

それで打ち出したり、ホームページを見て、大正琴のことやプログラムなどもわかりやすく載っていたので、そういうものを習ってもいいのかなと思った。

やはり、何を打ち出すのが重要で、既存のものだけでなく、SNSを使うとか、誰かに何かをしてもらい、楽しそうなものを打ち出す。また、市内の文化財などの対象を動画に撮ってPRする。そういうようなもので打ち出していかないと、なかなか辛いところがあると思っている。

先ほどから、コンセプトについて、ずっと考えていて、ふるさとの二つ目をとって歴史に繋がるとかを考えたが、歴史的になりすぎるし、世界に繋がるとも考えたが、少し大きくなりすぎるなと思っていたが、ふるさとに学び、世界に繋がる人を育むような、ふるさとから広がっていくようなコンセプトの言葉があればと思っていた。

(委員) 打ち出し方というのは、どこの施設も本当に困っている。

ノウハウがわからないというところが多いと思う。私が居たところも広報が上手かったところではなく、すごいキャッチなコンセプトができているかと言ったら、なかなかそうは思わない。コンセプトについて、今何か申し上げられることはないが、考え方としては柏木委員がおっしゃったようなことだと思っている。

地域だけにとどまらず、広く発信していくということが肝ではあると思う。

(議長) シンク・グローバリー、アクト・ローカリーということだと思う。

少し、予定時間を延びつつあるが、コンセプトについては、了承いただいた中で、若干の文言修正はかけるということと、具体のところでは精査しながら追加があれば事務局へ教えていただければと思う。

次回の会議では、最終案に近いものを提示できればと思っている。

館長から何か一言あれば。

(館長) テーマが広いので、一つに絞ってというのは難しい施設だろうと思うが、大正時代の建物、青木画伯、平通画伯の絵といったものに、それぞれ興味を持ってこられることは、郷土館本来のスタートだったと思うが、それだけだと来られる方が限られたり、増えていけないのでイベントを開始したと思う。やはり、企画を続けていくしかないのかなというように思っている。

(議長) 弱みを強みに変えるというか、多面的な施設であるから逆に、それを活かした形で点を面にしていくというのが一つの狙いかなと思う。

それでは、時間が参っているので、議論については閉めたいと思う。

その他、なにかあるか。

(委員) 生涯学習アカデミーについての経過を聞きたい。

(事務局) 今年度については、りんどう学園やレフネックを受け継ぐ物として、仮称だが生涯学習アカデミーをプレ実施することになっている。子どものキャリア教育や人材育成の講座は、今年度は動く予定はない。

来年度については、プレ実施の仮称生涯学習アカデミーについて、来年度本格稼働を目指しており、企画のほうを進めて参りたい。

(議長) 次回以降の会議日程について、事務局から願います。

(事務局) 本日いただいた意見をもとに、次回に向けて提言書案を事務局でとりまとめていく。

次回の会議は、年を開けて1月下旬から2月上旬をめどに日程調整をさせていただければと思っている。

提言書の案について、途中で委員の皆様のご意見をちょうだいすることもあるかと思うが、よろしく願います。

(議長) それでは、1月下旬から2月上旬にできましたら対面でできたらと思うので、ぜひお運びいただきたい。

本日、欠席の委員も庁舎まで来ていただき対面でできればと思っている。

それでは、終了する。